



日本赤十字社 長崎原爆病院

Japanese Red Cross Society

病院案内





日本赤十字社 長崎原爆病院
院長 谷口 英樹

ごあいさつ

当院をご利用の皆様、コロナもようやく落ち着きを見せておりますが、いかにお過ごしでしょうか。当院ではこの4月より新たに93名の新入職員を迎え心機一転業務に邁進しております。また隈上前副院長が定年を迎えられ、非内科系副院長として新たに林 靖之放射線治療科部長に就任頂きました。放射線治療医としての実力は折り紙付きですが、病院運営の上でも卓越した指導力を発揮してくれるものと期待しております。今後とも皆様に良質で安全な医療をお届けできるよう職員一同努力いたしますのでよろしくお願い致します。

安全な医療をめざして

病院の理念

The Statement of the Hospital

人道・博愛の赤十字精神のもと、
地域並びに被爆者の皆様へ良質な医療を提供します

病院の基本方針

The Principles of the Hospital

1. 安全で良質な医療を提供します
2. 被爆者の健康管理と診療の充実に努めます
3. がん診療の拠点病院として医療の充実に努めます
4. 医療連携を促進し、地域医療に貢献します
5. 積極的に災害救護活動を行います
6. 人間性豊かな医療人の育成に努めます

患者さんの権利

Rights of Patients

1. 患者さんには、個人の尊厳が保たれ、良質の医療を公平に受ける権利があります。(医療を受ける権利)
2. 患者さんには、病状や診断、予後、治療方法などについて、わかりやすい説明を受ける権利があります。(知る権利)
3. 患者さんには、病状や治療方法、予後などについて十分な説明を受けたうえで、治療や検査を受けるか否かを決定する権利があります。(自己決定の権利)
4. 患者さんには、主治医以外の他の医療機関の医師に相談する権利があります。(セカンドオピニオンの権利)
5. 患者さんには、プライバシーや個人情報が守られる権利があります。(プライバシー・個人情報保護の権利)



患者さんの責務と病院からのお願い

Responsibilities of Patients and Requests from Our Hospital

1. 患者さんは、自身の健康に関する正確な情報を医師・看護師など医療従事者にお伝えください。（診療情報提供の義務）
2. 患者さんは、医師・看護師など医療従事者の説明を理解するよう努め、治療にご協力ください。治療方針に疑問がある場合は、遠慮なくご相談ください。（診療協力の義務）
3. 患者さんは、すべての患者さんが適切な医療を受けられるよう、病院の規則を守り、暴言・暴力・セクハラ・診療の妨げとなる迷惑行為等はしないでください。（規則を守る義務・迷惑行為の禁止）
4. 適切な医療が維持されるように、医療費を遅滞なくお支払いください。（医療費支払いの義務）
5. 患者さんは、医療人の育成のための教育や、高度の医療を提供するための臨床研究に、可能な限りご協力ください。（医療人育成教育と臨床研究への協力）

施設概要

長崎原爆病院は1958年開設以来、
原爆被爆者への貢献を自覚し、
その健康管理と治療に日々専念しています。

所在地	〒852-8511 長崎市茂里町3番15号
病床数	315床（一般247床・HCU6床・ 地域包括ケア44床・緩和ケア18床）
敷地面積	9,616.97㎡
建築面積	本館：26,431.43㎡ 別館：1,284㎡ 附属建築物：132.18㎡
職員数	789名（令和5年4月1日現在）
医師	87名 （臨床研修医師16名を含む）
医療技術職員	96名
看護師	370名
事務職員	81名
技能業務職員	108名
医療クラーク	41名
M S W	6名

診療科

内科、リウマチ科、脳神経内科、消化器内科、外科、
消化器外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、
婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、放射線治療科、
リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、
歯科口腔外科、緩和ケア内科、循環器内科、
糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、血液内科、
呼吸器外科、乳腺・内分泌外科

医療機関指定（令和5年4月1日現在）

- 健康保険、国民健康保険療養取扱医療機関
- 原子爆弾被爆者医療指定病院
- 労災指定病院
- 救急告示病院
- 病院群輪番制病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 臨床研修指定病院（基幹型）
- DPC対象病院
- エイズ協力病院
- 長崎DMAT指定病院
- 原子力災害医療協力機関
- 地域医療支援病院
- 地域災害拠点病院

本館

15階緩和ケア病棟フロア		15F
8～14階一般病棟フロア		14F ～ 8F
- リハビリテーション - 管理部門		7F
管理部門		6F
- 手術室 - HCU		5F
- 生理検査 - 内視鏡センター - 放射線診断部		4F
- 診療案内 - 耳鼻咽喉科 - 整形外科 - 歯科・口腔外科 - 眼科 - 形成外科 - 婦人科 - 外科 - 泌尿器科		3F
- 診療案内 - 外来治療室 - 処置室/救急外来 - 内科 - 採血・採尿受付 - 防災センター(休日・時間外受付) - 皮膚科		2F
- 初診 - 支払 - 患者相談・支援 - PET・RIセンター - 保険証確認(再来) - 再来受付機 - 守衛室(休日・時間外案内) - 計算 - 紹介センター		1F

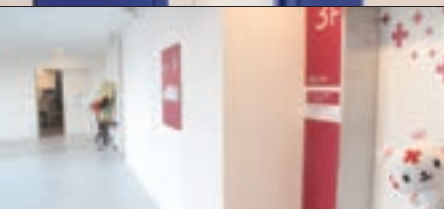
フロア インフォメーション

Floor Information

別館



■ 健診センター
■ 管理部門



■ 日本赤十字社
長崎県支部



■ 講堂(あじさいホール)
■ 管理部門



■ 総合案内
■ 放射線治療部
■ 売店
■ 赤十字ギャラリー

沿革

The History of the Hospital



- 昭33.5.20 (1958) 長崎市片淵町1丁目13番26号に「長崎原爆病院」として開設
開設者、長崎市長(お年玉付郵便葉書寄附金)
病床数81床、診療科目8科
(内科・外科・小児科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚泌尿器科・放射線科)
- 昭47.4.1 院内改築により病床数が360床となる
- 昭57.11.29 移転新築工事竣工式
(三笠宮妃殿下のご臨席を賜る)
- 昭62.2.10 エイズ協力病院に指定される
- 平10.4.1 麻酔科を増設し12科となる
- 平12.2.1 救急告示病院として認定される
- 平14.3.11 オーダリングシステム稼働
- 平14.12.9 地域がん診療連携拠点病院に指定される
- 平15.9.30 大韓赤十字社大邱赤十字病院と姉妹病院の提携
- 平16.3.31 臨床研修病院に指定される
- 平18.7.1 DPC包括算定病院に指定される
- 平21.1.13 電子カルテ稼働
- 平21.3.20 長崎DMAT指定病院に指定される
- 平21.4.1 リウマチ科を増設し、標榜診療科13科となる
- 平21.11.17 長崎地域医療連携ネットワークシステム「あじさいネット」の情報提供病院として登録・開始
- 平22.4.1 「産婦人科」を「婦人科」とする
小児科を廃止する
神経内科を増設する
- 平25.5.1 周期期の口腔ケアを目的とした歯科口腔外科開設(週3日)
- 平26.3.1 PET-CTを導入
- 平26.4.1 放射線治療科を増設
- 平26.10.1 地域包括ケア病棟開設(39床)に伴い病床数を350床とする
消化器内科、消化器外科、病理診断科を増設し18診療科とする
- 平27.4.1 形成外科を増設し、19診療科とする
- 平30.3.31 新病院本館完成
- 平30.4.1 訪問看護ステーションの設置
- 平30.5.2 新病院新本館へ移転、開院(病床数297床)
- 平31.1.25 地域医療支援病院に指定される
- 令2.3.16 新病院建設工事竣工
- 令2.3.30 地域災害拠点病院に指定される
- 令2.4.1 15階病棟の運用開始(病床数315床)
- 令2.7.1 緩和ケア病棟を開設し、15階病棟18床で運用を開始する
- 令2.7.31 新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定される
- 令2.11.1 糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、血液内科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科を増設し、26診療科とする
- 令2.11.1 電子カルテシステム更新
- 令3.3.16 福利厚生施設完成(訪問看護ステーション、託児所、洗濯室)





厚生労働省認定

地域がん診療連携拠点病院



地域がん診療連携拠点病院

当院は、平成14年12月に地域がん診療連携拠点病院の承認を受け、平成20年2月に指定を更新しています。質の高いがん医療を提供する体制を確保すること、地域の医療機関と緊密な連携を図ること、必要ながん医療に関する情報提供を行うことにより、地域全体における医療水準の向上に努めています。



PET-CT

当院には悪性腫瘍の病期診断や治療方針の決定に非常に有用とされているPET-CT装置が整備されています。

これは、多くの悪性腫瘍細胞が、正常の細胞よりも多くのグルコースを取り込むという特徴を利用して病変を検出する装置です。FDG(フルオロデオキシグルコース)という放射性薬剤を静注して撮像することで、ほぼ全身を1度に検索できます。

5-6時間の絶食と約20分の静止臥床が可能であれば検査出来るので、高齢者にも優しい検査です。



放射線治療

当院では、通常の放射線治療のほか、抗がん剤と放射線治療を組み合わせた化学放射線療法、ピンポイントでがん病巣を狙い撃ちする定位的放射線治療や強度変調放射線治療(IMRT: Intensity Modulated Radiotherapy)など高精度放射線治療まで実施しています。がん治療における放射線治療の役割を果たしていきたいと考えています。

緩和ケア病棟

当院は2020年7月に、15階に緩和ケア病棟を開院しましたが、感染対策のため閉鎖をしていました。新型コロナウイルス感染症が5類相当へ引き下げられることに伴い、順次緩和ケア病棟の再開を予定しています。緩和ケア病棟の開院に伴い、今まで培ってきたチーム医療を活かしながら、療養および生活の場として、リラックスして過ごしていただける環境やサポート体制作りを目指します。患者さんの心身の苦痛に少しでも寄り添い、家庭的な雰囲気で行えるように心がけてまいります。(写真は15階緩和ケア病棟からの景観です)

がん相談支援センター (医療社会事業課)

全国のがん診療連携拠点病院に設置されている「がんに関する相談窓口」です。がん相談支援センターではがんに関する様々なご相談を幅広くお受けしております。

また、「がん関連資料室」も併設しておりますのでご自由にご覧いただくことができます。がん患者さん・家族同士の「集いの場」として「ふれあいサロン ふらみんご」を定期開催しておりますのでお気軽にご参加ください。



化学療法

当院では、通院しながら治療を受ける患者さんに、安心して治療を継続できるよう認定看護師を中心に体調管理をはじめセルフケアの指導を行い、生活の質を維持できるようサポートさせて頂いています。また、医師・看護師・薬剤師・栄養士・MSWなど多職種で連携を図り、様々な角度から患者さんを支援しています。

患者相談・支援

がん関連資料室

医療相談(がん相談支援センター)

入退院支援センター

医療文書受付

地域連携

7

長崎県指定

地域医療支援病院



地域医療連携の推進

当院では、地域の診療所・病院の先生方からご紹介いただいた患者さんへより専門的な治療や検査をおこない、患者さんの症状が安定した後は、ご紹介いただいたかかりつけの先生もしくは適切な医療機関にご紹介させていただいています。

入院の際は、多職種で地域や在宅のサービスを総合的に検討し、患者家族の皆様のニーズに合わせた調整・支援を行っています。



救急医療の提供

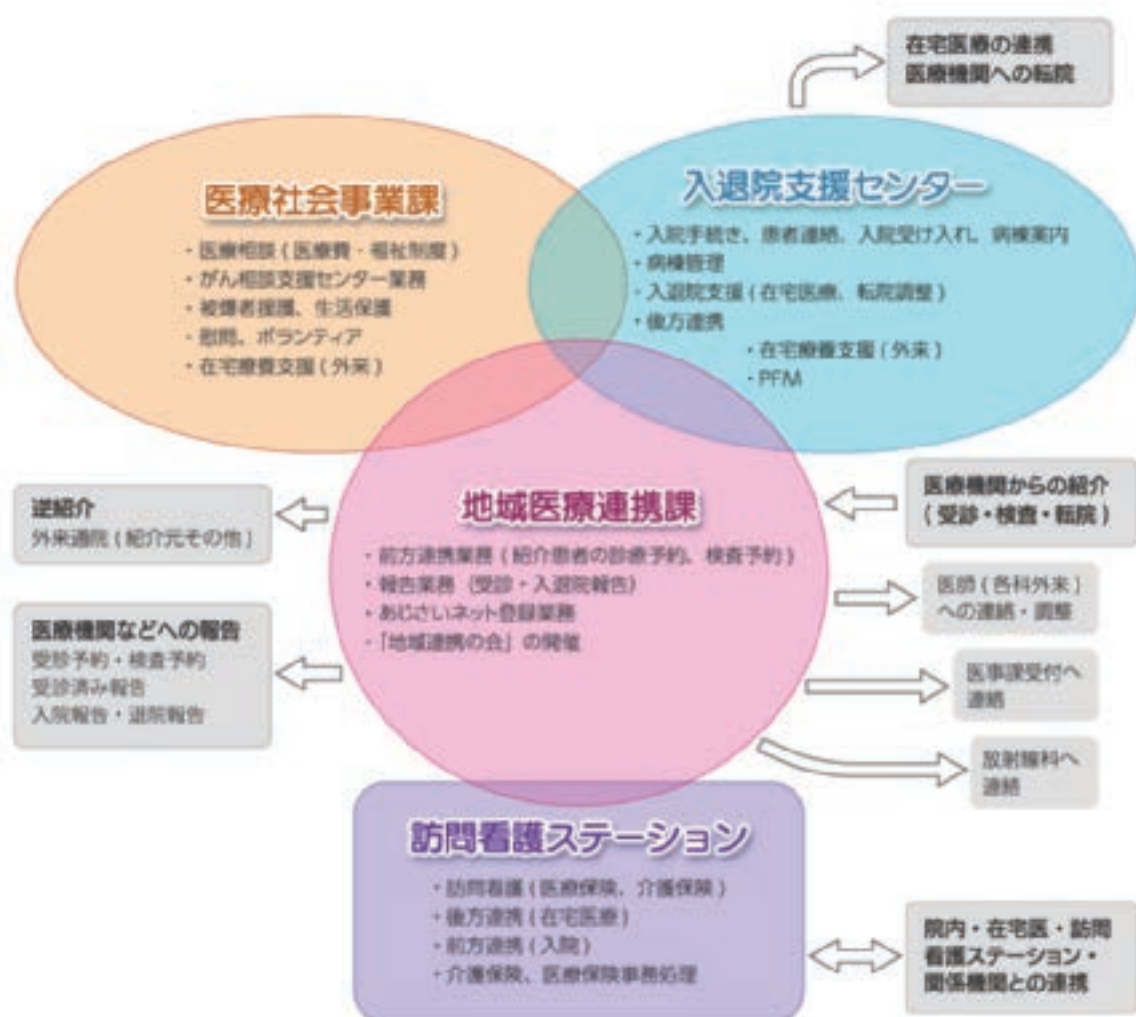
二次救急医療機関として、救急搬送患者の受け入れを行っています。休日・時間外問わず、当番医や当直医が診療を行い、入院が必要と判断された場合は適切な診療科に引き継がれます。また必要時、緊急手術・検査をオンコール体制で対応しています。

2022年度実績は救急車受入件数が2,548件、救急患者受入件数が4,682件でした。これからも長崎医療圏の救急医療に貢献できるよう努めます。



登録医制度

地域の先生方と当院が、相互の医療機能を有効に活用し連携を深めることにより、患者さんに、より質の高い医療を提供することを目的として、登録医制度を設けています。登録医の先生方には、当院の開放型病床や高度医療機器を積極的にご利用いただいています。また、ホームページ・院内掲示版・リーフレットでのご紹介、『地域連携の会』のご案内を行っています。ホームページ内に登録医専用ページを設けるなど、今後さらに内容の充実を図っていきます。





長崎県指定

地域災害拠点病院

2011年3月東日本大震災救護活動(石巻赤十字病院)



災害対応のための組織

当院は以下2つを併せ持つ施設です。

1. 災害拠点病院

長崎県や災害関係団体等と協力し、県内での災害に対応する。

厚労省主管の医療チームである

「日本DMAT」を組織。

2. 赤十字病院

災害時の対応を法律により定められている指定公共機関として、県内外での災害に対応する。

日赤独自の医療チームである

「医療救護班」を組織。

災害を想定した施設機能

構造：耐震

診療スペース：講堂及び外来待合の活用

非常電源：3日分の電機（自家発）

水の確保：井戸設備

その他：食料・飲料水・医薬品
各3日分備蓄

訓練等への参加

（日本DMAT）

- ・技能維持研修会
- ・九州ブロック実働訓練
- ・国、県主催訓練
- ・各種勉強会等

（医療救護班等）

- ・全国救護班研修
- ・九州八県合同災害訓練
- ・常備救護班中級研修会
- ・常備救護班基礎研修会
- ・国、県、市主催総合防災訓練
- ・防災関係機関主催訓練
（警察・消防・海上保安部・等）



派遣実績等



（日本DMAT）

- 2020年 コロナウィルス感染症クラスター施設
- 2021年 //
- 2022年 長崎市保健所（コロナ対応）

（日赤医療救護班等）

- 1982年 長崎大水害
- 1990年 雲仙・普賢岳噴火災害
- 2004年 新潟中越沖地震
- 2011年 東日本大震災
- // 保健医療支援事業（フィリピン）
- 2016年 熊本地震
- 2018年 西日本豪雨災害
- 2019年 九州北部豪雨災害
- 2020年 令和2年7月豪雨

充実の設備で安心

当院では、医療技術の進歩とともに、その技術に見合う先進の高度先端医療機器を取り入れ、より高精度な医療を提供しています。さらに、日々装置の品質管理を行い、安全な検査・治療に努めています。

放射線部門



PET-CT (Biograph mCT Flow)

Siemens社製の機種が整備されています。開口径が大きく、閉所が苦手な方にもほとんど負担なく検査できており、悪性腫瘍の病期診断や治療方針の決定に活用されています。



MRI装置 (MAGNETOM Skyra)

2018年から3テスラの新機種に更新され、専用コイルも充実し、特に頭部や骨軟部組織の高解像度の画像を提供できるようになりました。長崎市内では唯一MRIガイド下乳腺生検も可能です。



放射線治療装置 (Elekta社Synergy)

2018年にMLCが従来の10mm幅のリーフから5mm幅のものに更新されたことで、強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(SRT)などの高精度放射線治療の照射が短時間かつ精度良く行えるようになりました。最近では前立腺癌や頭頸部腫瘍はもちろんのこと肺癌に対してもIMRTで治療を行っています。



血管造影装置 (INFIX-8000F)

心臓、腹部その他の血管内治療に利用。心臓用と全身用の2種類の専用検出器を搭載。被曝低減のための専用透視機能を備え、また、使用中の線量分布もリアルタイムで認識可能な線量管理を行っています。



CT装置 (2管球_SOMATOM Drive)

低被曝、高速撮影はもちろん、造影剤減量下の高コントラスト撮影、術前症例のmapping3D画像作成なども行っています。2種類のエネルギーの放射線吸収値の差から、造影剤、石灰化、結石の組成などを区別して表示することも可能です。

放射線科部門 実績・件数 (2019年度-2022年度)

年			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
X線撮影			37,461	36,737	35,807	35,944
乳房撮影			2,758	2,616	2,625	2,584
CT撮影			13,438	13,451	14,384	14,509
MRI撮影			3,067	2,955	3,118	3,168
PET-CT検査			945	944	1,054	1,112
RI検査			509	528	638	521
血管造影(放射線科)			106	159	129	114
心カテ(循環器科)			333	369	282	201
骨塩定量			534	515	443	556
放射線治療患者数			291	321	315	303
高精度放射線治療	SRT (定位)	脳	28	25	27	39
		肺	7	10	14	15
		肝	1	1	4	6
	IMRT	頭頸部	12	13	12	12
		前立腺	31	34	27	37
		その他	20	36	43	24

診療部門



外来治療室(2階)

外来治療室では、当院に通院される外来患者さんを対象に、がんやリウマチ疾患に対する点滴治療を行っています。患者さんが安心、またリラックスして治療を受けることができるよう、副作用症状を含めた日常生活でのセルフケア支援に努めています。



内視鏡センター(4階)

内視鏡センターでは、上部消化管内視鏡(胃カメラ)、下部消化管内視鏡(大腸カメラ)、気管支鏡といった診断を目的とする内視鏡検査をはじめ、胃・大腸の早期癌や胆道・膵臓疾患に対する内視鏡治療を数多く行っています。内視鏡は、「きつい」「苦しい」というイメージが強いですが、そういった不安を少しでも軽減し、できるだけ安楽に受けていただけるようなケアを心がけています。センター内には内視鏡後の回復室も備えており、医師と看護職員が協力して、安全で良質な医療の提供に努めています。



リハビリテーション室(7階)

筋力トレーニングや有酸素運動を行う各種運動機器、体成分分析装置、各種物理療法機器等、最新機器を整備し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのスタッフが勤務しています。主に入院患者さんを対象としており、関節外科や骨折等の整形外科疾患、肺炎や心不全等の内部障害疾患、がんの患者さんなど多くの方に関わっています。



手術室(5階)

入院・外来患者の手術とHCU病棟業務を担当しています。新病院開院後は2室増室し7室(クリーンルーム1室)稼働となりました。平成29年より手術室HCU一体化病棟としての運用を開始、周手術期看護をより深めることで、患者さんの安全・安心につながる医療の提供に取り組んでいます。



薬剤部門



検査部門

施設紹介

新別館、立体駐車場

別館1階には放射線治療科部、売店がございます。2階にはあじさいホール(講堂)、3階は日本赤十字社長崎県支部、4階は健診センターとなっております。平面駐車場には47台、立体駐車場には285台まで駐車可能となっております。



放射線治療科部待合



講 堂



健診センター



健診待合



エントランスホール



売店



立体駐車場

部門紹介

医療安全推進室

医療安全推進室は、医療安全にかかる管理体制や業務内容を明確にし、組織横断的な医療安全活動等のより一層の強化を図るため、医療安全の推進や医療事故発生時の対応を所管する目的のために設置しています。役割としては、以下の内容を担っています。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ■医療安全に係る指導に関すること | ■医療事故の調査に関すること |
| ■医療安全に係る情報の管理に関すること | ■医療事故発生時の対応に関すること |
| ■医療安全に係る会議等に関すること | ■医療安全に関する委員会等の開催に関すること |
| ■医療安全に係る教育に関すること | ■その他、医療における安全管理に関すること |

当院の医療安全管理体制は、病院全体の医療安全を管理・指揮する「医療安全管理委員会」、医療安全の推進や医療事故発生時の対応を所管する「医療安全推進室」、全ての職員が構成員となり安全な医療について検討・実践を行う「セーフティマネジメント部会」で成り立っています。組織横断的機能としての役割と権限を院長から与えられ、各部門・部署へ自由に立ち入りながら活動を進めています。



職員研修(心肺蘇生+AED)



部署の取り組み(急変時シミュレーション)

感染制御室

感染制御室は、院内・外の患者さんやご家族、当院で実習される様々な実習生の皆さん、院内で働く全ての職員に対し、感染が予防できるように活動を行っています。

感染制御室では、専任の医師、薬剤師、臨床検査技師と専従の看護師、事務が常に連携を図りながら、様々な現場で活動を行います。基本指針は、対象の方々の個人の尊重をベースに下記としています。

- (1) 全ての場合に行う「標準予防策」と感染症の予防を主な目的とした「感染経路別予防策」の実施
- (2) 部署の特殊性に応じた感染予防策の実施
- (3) アウトブレイク防止等の危機管理の視点に立った感染予防・防止策の実施
- (4) 必要な情報の集約と病院内で情報を共有し、状況に応じた迅速な対応の実施

また、地域の医療施設等と連携し、地域での感染予防策にも寄与しています。



■NST(栄養サポートチーム)

NSTチームは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、言語聴覚士、歯科衛生士などにより構成し、栄養改善に向けた活動を行っています。栄養管理が必要と思われる患者さんを把握し、栄養状態の評価を行っています。対象者に回診を行い、患者さん、スタッフとともに栄養改善に向けた方策を検討しています。

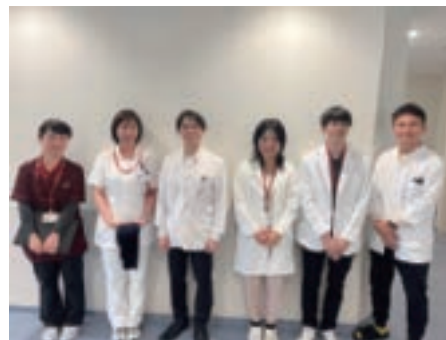
また、NST委員会にて、栄養管理に関するマニュアル作成、勉強会や症例検討会を定期的に行っています。

そのほか、院内の栄養管理に関する器材の選択についての提言や摂食嚥下チーム、褥瘡委員会などの他のチームや委員会との連携を行い、院内向けに栄養管理や啓蒙活動を定期的に行っています。



■DET(糖尿病療養指導チーム)

糖尿病療養指導チーム(Diabetes Education Team:DET)は医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師の多職種で構成されており、質の高い糖尿病診療を提供することを目的として活動しています。主な活動としてはクリニカルパス・マニュアルの作成や改定、インシデントの共有や対策の検討、勉強会の企画・運営、各職種の専門性を活かした個別・集団指導などで、患者さんを継続的に支援できるようチーム医療を推進しています。また、日本糖尿病療養指導士・長崎地域糖尿病療養指導士の資格取得や更新のための情報発信を行い、職員のスキルアップ支援も行っています。



■ICT(感染予防対策チーム)

感染予防対策チーム(ICT)は、2002年に発足し、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、栄養士、リハビリスタッフ等で構成されています。職員の研修の実施、手洗いの徹底をはじめとした現場での感染予防策の実施・浸透のために活動しています。



手洗い講習会において

■褥瘡対策チーム

メンバーは、皮膚科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、各部署からの連絡員で構成されています。

毎週金曜日に褥瘡保有者のラウンドを行っており、隔週で予防ラウンドを行っています。

他にも、月1回の委員会、年1回の学術講演会と年度毎のトピックスに応じて褥瘡対策に必要な勉強会を開催しています。

また、体圧分散マットレスや栄養管理、褥瘡治療のための薬剤・被覆剤の充実に努めています。

当院は急性期病院であり、医療関連機器圧迫創傷の予防にも力を入れています。



■緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、よりよい緩和医療の提供を目的として、2007年3月に発足しました。発足以来、疼痛をはじめとする様々な身体と心の苦痛を軽減するべく、多職種横断的な取り組みを続けてきました。医師(身体症状担当 2名、精神症状担当 常勤1名 非常勤1名)、緩和ケア認定看護師は今年度より2名、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーからなり、週1回の症例検討会や回診を通して、心身の症状緩和、家族支援、退院支援・調整などを行っています。また緩和ケアに関する院内外の教育活動や、公開カンファレンス(第2金曜日開催)などを通して、他の医療施設・介護施設との連携を行い、地域における緩和ケアの質の向上を目指しています。

緩和ケア外来は、がんおよび非がんの患者さんを対象に、身体症状担当医師と緩和ケア認定看護師が担当し、週4回(月・火・木・金曜日午前)行っています。予約制で一人30分の時間を確保し、当院通院中の方のみならず院外からご紹介いただいた患者さんにも対応しています。



緩和ケアチーム
ロゴ



緩和ケアチームカンファレンス

教育・研修

日本赤十字社長崎原爆病院の教育理念

病院の理念に基づき、
対象を全人的に理解し尊重できる人格を涵養し、
安全で質の高い医療を提供できる職員を養成する。

教育研修推進室は、良質で安全な医療の提供と、赤十字職員として国内外の救護救援活動に貢献できる職員の育成を図ることを目的に設置され、現在、副院長を室長とし医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、理学療法士、栄養士、臨床工学技士、事務職員で構成されています。

主な業務は、病院全体の教育・研修の企画・実施・評価、各部門間の教育支援や研修調整、各種教育機関や施設からの研修受け入れ、赤十字災害救護研修の企画・調整、職員の生涯学習支援などです。臨床研修医支援については、臨床研修管理委員会と連携して業務を行っています。また、病院各部門と協力して地域医療従事者の方々への研修機会の提供や、未来の医療従事者育成に関わる中学生や高校生の職場体験の受け入れなどを行っています。

各部門でも教育理念や教育基本方針を定め、年間を通して自己研鑽や研修に励み、良質な医療の提供に取り組んでいます。

全職種の連携やリフレッシュを目的に



新採用職員宿泊研修

エアテントなど災害用資機材取扱い



常備救護班要員研修

病院各部門で様々な業務を体験



中学生職場体験



看護部門

看護部では教育研修体制を整備し、看護職一人ひとりのキャリアアップを応援しています。

①キャリア開発ラダー	看護実践能力の到達目標を段階的に設定した教育システムです。自分で目標を決め、継続的に自己を成長させていくことができます。
②全体教育	看護職全員を対象に、医療・看護界のトピックスや臨床講義を企画し実施しています。
③専門領域別研修	認定看護師や病院の各チームが中心となり専門領域別の研修をシリーズで行い、専門性を高める支援を行います。
④看護研究	毎年、各部署単位で看護研究に取り組み、院内での発表後、学会発表を行います。院外講師や看護研究委員、看護師長・係長が支援しています。
⑤対象別研修	新人看護職員実地指導者研修や新任師長・係長研修、看護補助者研修、長期休暇復帰者研修など、対象を絞って必要な研修を行っています。
⑥救護看護師養成研修	赤十字の救護看護師としての知識・技術を講義・実技・演習などを通して身に付け、災害発生時に迅速に活動できる看護師を育成しています。

その他の活動

※近年では新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対外的な活動を見合わせているものもあります。

被爆者医療事業

当院は、長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM) 事業を通じて、在外被爆者の渡日治療事業並びに医療機関職員の研修受け入れ、専門医師等の派遣事業等に積極的に取り組んでいます。令和4年11月には、在南米被爆者にかかる健診に当院副院長を派遣し、コロナ禍においても国際的な使命を果たしています。



チェルノブイリ研修受入



韓国医師研修受入



在韓被爆者健康相談事業

赤十字活動

日本赤十字社長崎県支部では、5月の赤十字運動月間のイベントとして「赤十字ふれあいフェスタ」を開催しています。赤十字を多くの人に理解していただくことを目的に、各種参加体験型のコーナーを設けています。

当院は、血糖測定や健康相談等のコーナーを担当し、医師・看護師を始めとした各職種の職員が赤十字の普及に努めています。



血糖測定の様子

福利厚生施設棟(1階フロア:訪問看護ステーション 2階フロア:院内保育所)

訪問看護ステーション

訪問看護とは、病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく療養生活を送れるように、看護師等が生活の場へ訪問し、看護ケアを提供し、自立への援助を促し、療養生活を支援するサービスです。

スタッフ

管理者兼訪問看護師: 看護師長1名

訪問看護師: 看護師5名

訪問エリア

長崎市、時津町、長与町など原則当事業所より車で30分以内。詳しくはご相談ください。



院内保育所

2021年春に、病院敷地内に院内保育所を移転しました。職員の皆様が安心してお子さんをお預けし、勤務に専念できる職場環境を整備しています。



交通アクセス



■ 長崎バスを利用する場合

〈JR長崎駅から〉 1番系統、2番系統、8番系統、100番系統(茂里町行き)
「ココウォーク茂里町」下車 約15分(バス10分+徒歩5分)

■ 長崎県営バスを利用する場合

〈JR長崎駅から〉女の都団地、女の都入口、西崎団地、サニータウン、
長崎商業高校、昭和町、6循環、6西山台団地、12循環、12西山台団地、
三原団地、他 「茂里町」下車 約15分(バス10分+徒歩5分)

■ 市内電車を利用する場合

〈JR長崎駅から〉 1番、3番系統(赤迫行き)
「茂里町」下車 約17分(電車10分+徒歩7分)

■ 車、タクシーを利用する場合

〈JR長崎駅から〉 約10分

■ 徒歩

〈JR浦上駅から〉 約2分

■ 平面駐車場(正面玄関側) 47台収容

■ 立体駐車場(ブリックホール側) 285台収容

外来受付時間 初診:8:30~11:00
再診:8:15~11:00

休診日 土、日、祝日
年末年始(12月29日~1月3日)
日本赤十字社創立記念日(5月1日)

面会受付時間 平日:14:00~20:00
土日祝日:11:00~20:00

 **日本赤十字社 長崎原爆病院**
Japanese Red Cross Society

〒852-8511 長崎県長崎市茂里町3番15号

TEL:095-847-1511(代表)

FAX:095-847-8036(代表)

紹介予約専用TEL:0120-845-261

紹介予約専用FAX:0120-845-262

予約受付時間 月~金曜日8:30~16:30

※緊急受診(時間外・休日含む)および緊急入院のご依頼は
病院代表TELへお願いいたします。

<https://www.nagasaki-med.jrc.or.jp/>

